



1937（昭和12）年、大和郷幼稚園卒園記念写真帖から「お買もの」。「大和郷（現在の東京都文京区本駒込6丁目）は、大正11年から理想の住宅地として分譲された地域です。自治会もあり、その自治会が地域の子どもたちのために創設した幼稚園に通いました」

昭和11年、母は幼稚園で みそ汁給食を始めました

私は4月に生まれたのですが、女の子は早く学校に行かせようとの親の考えで、3月末の誕生で出生届が出されました。ですから体は小さく、行動は幼い、しかも研究者の家庭で育ったので一般家庭の常識にうとい子どもでした。

昭和11年、5歳で近所の^{やまとむら}大和郷幼稚園に入園しました。当時は幼稚園に通えるのは限られた家庭の子、地方では貧困児童救済のための給食が行なわれていた時代です。母は園医を引き受け、みそ汁給食を始めます。園児のお弁当調査もして、結果を『栄養と料理』昭和14年3・6月号で発表します。主食はほとんどが白米で胚芽米5%、麦入り2%。おかずは豊富ですが

肉類が多く、野菜が不足しており、栄養的に不完全、子どもの好きな食べ物に偏り、栄養バランスに配慮したものは少なかったようです。実だくさんのみそ汁で栄養的な補完をしようとしたのです。

庶民的に育てるとの方針から公立の小学校に入学しましたが、次に伝染病をもらい弟3人にうつす事態に。2年生で女子師範学校の付属に転校しても、けっしてできのよいほうではありませんでした。女学校は近所のミッシヨンスクール女子聖学院に入学しました。校長先生は、「今に勉強を始めますよ。だいじょうぶです」と気持ちよくお引き受けくださったそうです。

私の昭和

香川芳子

女子栄養大学学長